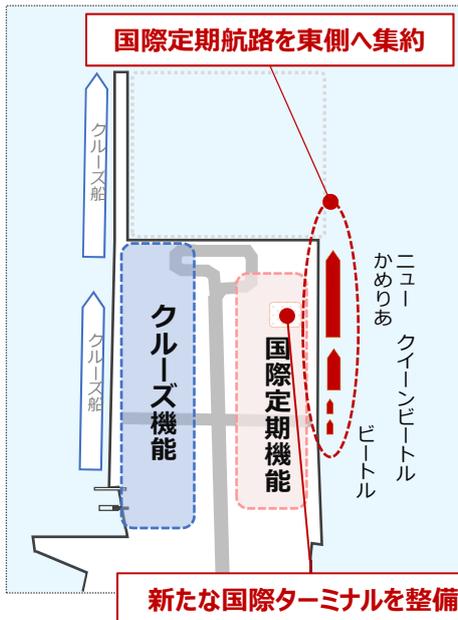


# 国際定期機能移転見直しについて

国際定期機能については、中央ふ頭東側へ移転・集約することとしているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、国際定期を取り巻く事業環境は大きく変化しており、東側移転について改めて前提条件を整理し、見直しの検討を行ったもの。

## 1.これまでの計画



○運航船舶数：4隻

JR九州高速船(株)	ジェットfoil (ビートル)	2隻 × 1往復/日
	新造船 (クイーンビートル)	1隻 × 1往復/日
カメラライン(株)	国際定期フェリー (ニューかめりあ)	1隻 × 1往復/日

乗降客数 (想定) : 約60万人 / 年

## 2.見直しの結果

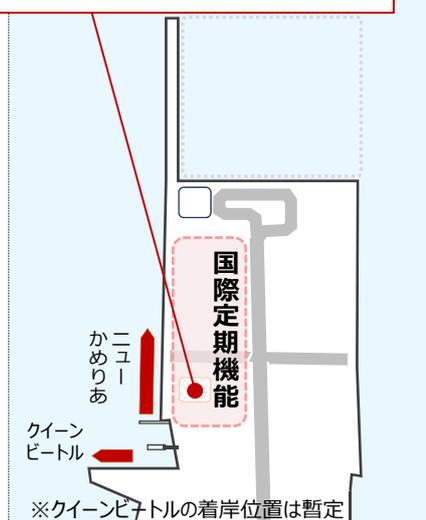
### (1) 事業者の事業環境の変化

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、国からの旅客運送停止要請を受け、令和2年3月から運航がなく、国際定期を取り巻く環境は厳しい状況
- ・国際定期事業者においては、船舶（ジェットfoil 3隻）を売却し、新造船1隻体制へ事業縮小を行うことを決定し、併せて、大幅な人員整理を行うなど、経費削減や経営改善のための取り組みが行われている。

## (2) 運航船舶数・運航体制の見直し等による、乗降客数の減少

- ・船舶の減少（4隻→2隻）に伴う運航体制の見直しにより、乗降客数がこれまでの見込みを大きく下回る。
- ・国内他港と韓国を結ぶ船社においても、廃業や船舶の売却がなされている。

### 現行国際ターミナルを引き続き活用



### ○運航船舶数：2隻

船舶3隻の売却により、運航船舶が減少

JR九州高速船(株)	新造船 (クイーンビートル)	1隻 × 1往復/日
カメリアライン(株)	国際定期フェリー (ニューかめりあ)	1隻 × 1往復/日

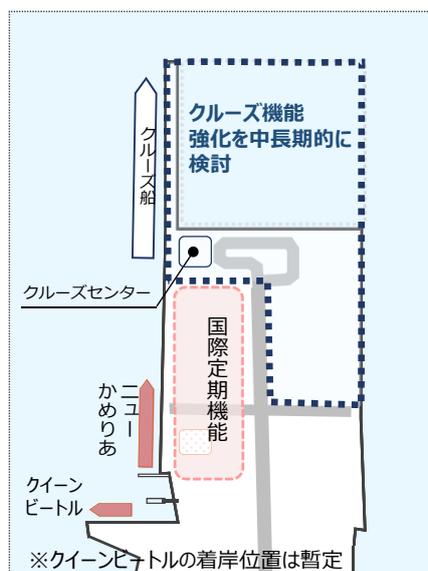
**乗降客数（見込）：約31万人（▲29万人）／年**

- 乗降客数が半減
- ターミナル使用料等の収入が想定より大幅に減少

### 新たなターミナル整備は一旦見合わせ、現行ターミナルを引き続き活用

これまで見合わせていたアセットマネジメント上必要な改修を行い、活用する。

## 3.クルーズについて



### (1) クルーズの状況

- ・国内外のクルーズ船社においては、感染症対策に取り組み、運航を順次再開するものの一部の国や地域と限定的であり、また、再開した運航が感染の再拡大により中止になるケースもある。
- ・現時点で、博多港における受入再開の見通しは立っていない。

### (2) 今後の対応

- ・新型コロナウイルス感染症やワクチン接種の状況を見ながら、市民の安全・安心を第一に受入を検討していく。
- ・クルーズ機能強化については、今後の市場動向や寄港状況などを注視しながら、中長期的に検討することとし、受入再開後は、当面、現行のクルーズセンターや箱崎ふ頭で対応していく。